

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立多治見高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年11月8日(月) 13時30分～15時30分
- 3 開催場所 多治見高等学校会議室
- 4 参加者

会長	本田 幸司	JR東海多治見駅首席助役	
副会長	皆元 健一	多治見市役所企画部防災課 兼移住定住推進室課長代理	
委員	安藤 直美	本校育友会副会長	
	伊藤 ゆかり	本校卒業生	
	小口 英二	多治見まちづくり株式会社取締役社長	
	加藤 大輔	多治見青年会議所理事長	
	高橋 美和	本校育友会副会長	
	松岡 真有里	本校育友会副会長	
	村松 敦子	多治見市養正公民館館長	
	学 校 側	白石 秀史	校長
		吉田 浩之	教頭
	小栗 啓茂	事務長	
	田並 正	教諭(教務主任)	
	星野 益也	教諭(生徒指導部長)	
	堀 裕邦	教諭(進路指導部長)	
	可知 幸則	教諭(特別活動部長)	
	丸山 真	教諭(保健厚生部長)	
	河田 雅伸	教諭(教務部)	

5 会議の概要(協議事項)

(1) 校則の見直しについて

昨年度、県内の他の公立高校と同様に、本校も校則の見直しを行なった。今後も生徒、保護者、地域の方々の意見を参考にして、必要があれば随時見直したいと考えている。

意見1：身分証明書を校内外において常に携帯するという記載があるが、生徒は休日なども含めて常時携帯しているのか。

⇒ 各種の学割の際の証明になるため、生徒は身分証明書を携帯している。

意見2：指定の通学カバンを使用するとの記載があるが、指定カバンに加えてサブバッグなどを使用してもよいか。

⇒ 指定カバンに加えてサブバッグを使用してもよい。サブバッグについての規定はない。通学カバンについては、保護者アンケートの結果、カバンを指定してほしいという意見が多かったため指定している。

(2) スクール・ポリシーについて

令和3年度末までに、『育てたい生徒像（グラデュエーション・ポリシー）』、『生徒をどう育てるか（カリキュラム・ポリシー）』、『どんな生徒を待っているか（アドミッション・ポリシー）』を明示したスクール・ポリシーを策定する。

意見1：育てたい生徒像には、本校の3つの教育目標が表されており、アドミッション・ポリシーから、勉強と部活動を頑張りたい生徒を求め、地域力や人間力を育てたいということがわかる。カリキュラム・ポリシーの中の、「学力を身に付けて自らの考えを伝える力を育てる」という点はわかりやすいが、「自らの進路について深く考えるための機会」という項目と、他の項目とのつながりが不明瞭に感じる。協働を訴えるならその点をわかりやすく記載してもよいのではないか。

意見2：ここ数年、探究活動などで本校の生徒が地域に出て様々な活動を行っている。地域に住む者として、地域やふるさとで学ぶ機会を提供し、将来はふるさとで働きたいという生徒を育ててほしい。スクール・ポリシーにも「地域」という文言を入れてほしい。

(3) 学校施設開放について

学校施設の外部への開放について、本校では昭和49年から平成20年まで多治見市にテニスコートを開放していたが、近隣に市が管理する「星ヶ台競技場テニスコート」ができて以来使用申請がなくなったことから、平成20年に多治見市から施設使用中止の申し出があり、学校開放を終えたという経緯がある。

意見1：事前に資料を読み、市に尋ねてみた。施設を管理している部署では以前そうした制度があったことを知らず、当ても利用実績はあまりなかったものと思われる。現在は市の施設も増えておりそれらの施設で十分やっていける。施設の不足が生じて市や地域から要請があった場合に、あらためて検討すればよいのではないか。

(4) 学校施設及び授業について

意見1：図書館の本が街の書店のように並べてあって見やすい。コロナ関連や受験関連のコーナーがあり、子どものために様々な工夫がされているところに感動した。

授業では生徒が生き生きと実験を行っていたが、薬品を使用する実験で手袋を着用させなくてよいのかが気になった。

⇒ 劇薬を用いるときなど手袋が必要な場面では着用させる。試験管などを持つときに手袋だと滑りやすいため、必要な場合以外では手袋を着用させていない。

意見2：図書館に感動した。本校の生徒が、私の運営する書店まで足を運んで店頭選書を行うこともある。そうした努力が本校の図書館を作り上げていると感じた。

多治見市と連携して「たじみビジネスプランコンテスト」を行っており、本校の生徒も参加している。昨年度のグランプリ受賞者に、仕事について知る機会を提供してくれる方がいる。行政と連携してそうした方の話を聞く場を設定していただくと、効果的なキャリア教育となるのではないか。

高校生はもう少し内気なのかと思っていたが、地域との協働活動に参加している生徒を見てみると、進んで手を動かして、商店街の人と協力しながら町のために何かを作ろうとしており素晴らしい。

意見3：授業の様子を見て、自分の高校時代とは全く変わっていることを実感した。高校時代から地域のことに関わると、地域のことが印象に残る。今後も高校生と接点を持ち関わ

っていきたい。

意見4：何十年も続けて、駅に手作りの座布団をいただいている。利用客からの評判もよく、本校生徒が作ってくれたということを広報活動でも伝えている。

駅などでもトラブルなく利用しているが、最近、世間では物騒な事件も起こっており、そうした点について生徒に注意を喚起してほしい。

意見5：ホワイトボードを使用した授業を参観し、便利な時代になり新しい物を取り入れていることを実感した。

意見6：ICT機器の導入により授業が年々変わっている。今の3年生が入学したときは、まだ従来の黒板だったが、その後ホワイトボードなどが導入され、今は勉強の仕方が全く変わっている。機器の発達に追いつくために、先生方も授業の進め方を研究されたことと思う。高校での学習は専門的で、これまでに培ってきた授業の進め方や説明の仕方も活かしつつ、新しい機器を活用して教えるために大変な努力をされたことと思う。

意見7：先生同士でデジタルコンテンツを共有し、充実させることで生徒により良い資料の提供ができる。現在のオンライン授業はインターネット回線の混雑を避けるため、双方向でできる状態ではないということが気になった。生徒と先生が双方向で行う学びやコミュニケーションが必要である。早く改善してもらいたい。

地域の公民館では、毎年、本校の吹奏楽部による演奏や楽器体験を行ってもらっている。先日も小学生や地域の方々に向けて演奏してもらい、生演奏を聴く機会が減っているなか貴重な機会となった。近日中に2年生の生徒による小学生向けのサイエンスショーもある。こうした機会のたびに、本校の生徒の姿に地域の方も感心しており、地域と高校生をつなぐ場として、今後も協力していきたい。

学校の施設について、理科の実験室が古く洗い場なども狭くて、実験や学習に支障がないのかが気になった。今後改修の予定はあるのか。

⇒ 理科室のある2号館については、化学実験室、生物実験室を含めて、既に改修に向けて進んでおり、棟全体の現地調査も終わっている。また、インターネット環境の改善は県全体の課題であり、その点について本校からも改善を求めている。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会は、新型コロナウイルス感染拡大により書面開催としたが、第2回は対面で開催し、生徒の授業の様子を参観のうえ、意見や要望を聞くことができた。校則の見直しなどの承認を得られた点と、スクール・ポリシーになどの要望が出た点があるが、得られた意見を学校運営に反映させ、スクール・ポリシーについては第3回学校運営協議会の場で最終案を提示したい。また、学校施設の改修やインターネット環境の改善についても県教育委員会に伝え、生徒の学習環境の改善につなげていきたい。